

武蔵小金井駅南口再開発予算の凍結と市民生活の年間予算が成立

日本共産党の対応について見解をお知らせします

2004年9月29日

日本共産党小金井市議団

経過について

9月28日の最終本会議で、2004年度の年間予算が成立し、あわせて再開発予算の凍結を求める付帯決議が可決されました。

野党系6会派は、最終本会議に再開発を除く修正案を提出。日本共産党も賛成し、修正予算案が可決しました。しかし稲葉市長は、議決結果に異議を申し出て、再議にかけました。再議は、一度議決した議案をもう一度、採決しなおすことができるという市長の強力な権限です。可決には3分の2以上の賛成が必要です。可決された修正案は再議にかけられましたが、3分の2に達せず、否決されました（日本共産党は賛成）。その後あらためて市長が提案した2004年度の年間予算について採決に入り、日本共産党は退席し、予算は成立しました（賛成11、反対9、退席3）。

また、日本共産党は議会の多数と関係者の理解を得るまで再開発予算等の凍結を求める付帯決議の提案者になり、可決させました。（賛成22、反対1）。

日本共産党の見解

日本共産党は、大型開発計画を見直して、市民生活を優先させることを基本的な立場にして活動してきました。

2004年度の年間予算に退席し、年間予算を成立させたのは、4回目の暫定予算によって市民の生活に影響が出ることを回避し、市民の暮らしを守る立場からです。

日本共産党は8月から市内の団体と懇談したり、現場の聞き取り調査などを行いました。その中で商業関係者からは、「予算の成立を」という声や学校や保育園、公民館の現場からは「備品が購入できない」、「施設の修繕ができない」などの声が寄せられました。また東町の市民からは市議会に東小金井駅開設記念会館の早期改築を求める要望書が180名の署名を添えて提出されました。日本共産党は野党ですが、最大会派としてこれまでの再開発に対する筋を通しながら、4回目の暫定予算の道を選択することは、市民生活に多大な影響を与えると判断し、責任ある対応を貫いたものです。

同時に、日本共産党が提案議員となって、再開発予算の凍結を求める決議を可決させたのは、これまで強引に進めてきた再開発事業の息の根を止める第一歩となるからです。

再開発事業を認可する国土交通省は、法律により再開発事業にかかわる資金の計画とその財源の根拠が明らかにならなければ、事業の認可を下ろすことはできません。

今回の決議によって国土交通省が認可を下ろすことは困難になりました。再開発予算が凍結されている間は、国が事業認可を下ろさないようにすることを市長と与党に確認し、決議に賛成しました。

暫定予算になって以来、市民からは「再開発以外の市民の生活にかかわる予算の成立を」の声が広がり、市民の世論が、市長と与党を動かしました。

日本共産党は、市民のみなさんとともに、市長が再開発予算の凍結の決議を誠実に実行すること、再開発予算が凍結されている間、市議会や関係者の理解が得られるよう、現開発計画の見直しを求めて奮闘する決意です。

以上

議案第43号平成16年度小金井市一般会計予算に対する付帯決議

<提案議員>

伊藤 隆文 西岡 真一郎 鈴木 洋子
高木 真人 井上 忠男

平成16年度が既に半年を過ぎようとしている。この半年間小金井市一般会計は暫定予算のままという異常な事態で推移してきた。予算審議の争点となっているのは、市長提案の武蔵小金井駅南口再開発と東小金井駅北口区画整理の関連予算の内容と議会多数の見解の相違が背景にある。その結果、市民生活に関わる多くの予算に影響を与えている。

よって、小金井市議会は、暫定予算による市民生活への影響を考え、市長に対して、款8土木費、項4都市計画費、目1都市計画総務費、節19負担金補助金及び交付金「武蔵小金井駅南口第1地区第一種市街地再開発事業分担金176,000千円」「武蔵小金井駅南口第1地区第一種市街地再開発事業に係る公共施設整備負担金3,000千円」と目2土地区画整理費、節1報酬「土地区画整理審議会委員報酬(10人)404千円、評価員報酬(3人)30千円」の執行に関しては、議会多数と関係者の理解を得るまで、予算の年度内執行を凍結するよう求める。

以上、決議する。

平成16年9月28日

小金井市議会

<各議員の付帯決議に対する態度>

賛成

日本共産党(関根、板倉、井上) 公明党(鈴木、和田、小尾)
改革連合(五十嵐、武井、西岡) 改革21(高木、篠原、小川)
自民党(露口、伊藤) 生活ネット(小山、藤村) 民主党(渡辺、斉藤)
市民の党(野見山、青木) 湧く湧く(若竹) 市民ウェブ(稲垣)

反対

市民自治こがねい(漢人)